

重大な事故防止に向けた安全対策

【 10 ハンドボール 】

1 競技特性

ハンドボールは、「走る・跳ぶ・投げる」という基本的な運動形態で構成される。攻防のあるスポーツであるため運動能力と敏しょう性が要求され、運動能力全般を高めるのに適している。比較的ルールが簡単のため誰でもゲームに熱中できる。ボールを持つての移動が3歩まで許されるので、ゲームはスピーディーでスリリングに展開され、時には激しくぶつかり合うこともあるため、エキサイティングなゲーム展開となる特性を有している。サイド側のラインが40m、ゴール側のラインが20mの長さを有する比較的広いコートの中で、スピード感あふれる動きと、攻防における相手とのコンタクトの中で、ジャンプしたりカットインしたりクロスプレーからの展開で相手ゴールにシュートし得点を競い合うスポーツである。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外コートのゴールにぶら下がり倒れて下敷きになる ・ ベンチや得点版の設置固定は安全が確保されているか ・ ゴールポストはウエイト等で固定されているか ・ ボールの空気圧は適正で、亀裂などはないか ・ ボールがコート内に散乱していないか ・ ワックスやほこり、汗や飲み物によって床が滑りやすいか ・ 他の部活動と校庭や体育館を共有する際、防球ネットを使用しているか ・ 医薬品などの準備はできているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折 ・ 打撲 ・ 骨折 ・ 捻挫 ・ 捻挫 ・ ボールがぶつかり脳震盪、転がったボールを踏み捻挫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールの取り扱いに気を付け、必ず3人以上で運ぶ ・ 安全の確認 ・ 安全の確認 ・ 空気圧確認 ・ ボールを拾う生徒の配置、ボールケースへの収納、声掛け ・ プレーを止め、モップ、雑巾等で拭く ・ 防球ネットの使用、声掛け

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 速攻時の接触事故 ・ 隣のコートとの距離は十分保たれているか ・ 装身具(ネックレス・ヘアピンなど)はつけていないか ・ 爪の長さは適切か ・ ウォーミングアップ・クールダウンをきちんと行っているか ・ フットワーク時のけが ・ 練習の中で適切な休息時間を設けているか ・ 衝突が避けられるような技術を習得しているか ・ 顔面などへのシュートを回避できる技術を習得しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対人接触による脳震盪、打撲 ・ 対人接触による脳震盪 ・ 擦過傷 ・ 爪の剥離、突き指、指の脱臼、相手への擦過傷 ・ 体調不良、睡眠不足等で熱中症になりやすい ・ 足首・膝関節炎、腰痛、捻挫、熱中症 ・ 熱中症 ・ 打撲、骨折、内臓破裂 ・ 頭部損傷、心臓震盪、眼球損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一方通行または前の人が終わってから開始する ・ 安全な距離の確保 ・ プレー前に確認 ・ プレー前に確認 ・ ウォーミングアップ・クールダウンをきちんと行う ・ 過度の練習により疲労感を貯めない ・ 適度な休息と水分補給 ・ 約束事の徹底。コンタクト時には後方、側方からつかむ、押すなどの危険な行為は行わない ・ ゴールキーパーの正面、特に頭部に向けてシュートを打つなどの、相手に対して危害を及ぼすような行為は絶対に行わない。

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・複数箇所からのシュート練習の方法は適切か ・相手のシュートカットの際に、ボールが当たった ・ゴールキーパーがシュートを受けた際、指に強く当たった ・シュート体制に入ったところをディフェンスプレイヤーと接触、バランスを崩し腰から落ちた ・お互い接触し、太腿に膝が入る ・ジャージのファスナーが顔面に当たる ・シャツを出したり、フード付きのジャージを着用して練習する ・緊急時の連絡体制は整備されているか ・RICE処置やテーピングなどの応急処置について、理解しているか ・当番医の確認や医療機関への連絡体制は整っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・捻挫、眼球の損傷 ・眼球の負傷 ・手指の骨折脱臼 ・脊椎分離症腰の捻挫 ・筋挫傷 ・擦過傷 ・指が絡まり骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジションごとのシュート練習は一人ずつ行う ・プレイヤー同士の危険な接触を避けるよう、審判が警告を出す ・キーパーマスクの着用 ・体幹の強化と身のこなし方の習得 ・膝が入る距離に入らない ・危険のない服装か確認する

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・校庭で行う際、コート内の凸凹はないか ・雷の有無 ・雨上がりでの練習 ・炎天下での練習 ・Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・捻挫 ・感電 ・捻挫 ・熱中症 	<ul style="list-style-type: none"> ・コート整備をきちんに行う ・警報の確認 ・コート整備をきちんに行う ・適度な休息と水分補給 ・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

(財)日本ハンドボール協会；危機対策マニュアル
埼玉県教育委員会運動部活動指針三訂版

安全確認チェックリスト

【 10 ハンドボール 】

競技会名	
期 日	令和 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設 ・ 設備 ・ 用具	ベンチや得点版の設置固定は安全が確保されているか	
	ゴールポストはウエイト等で固定されているか	
	ボールの空気圧は適正で、亀裂などはないか	
	ボールがコート内に散乱していないか	
	ワックスやほこり、汗や飲み物によって床が滑りやすすくないか	
	他の部活動と校庭や体育館を共有する際、防球ネットを設置しているか	
	医薬品などの準備はできているか	
活動 内 容	隣のコートとの距離は十分保たれているか	
	装身具（ヘアピンなど）はつけていないか	
	爪の長さは適切か	
	ウォーミングアップ・クールダウンをきちんと行っているか	
	練習の中で適切な休息時間を設けているか	
	衝突が避けられるような技術を習得しているか	
	顔面などへのシュートを回避できる技術を習得しているか	
	複数箇所からのシュート練習の方法は適切か	
	緊急時の連絡体制は整備されているか	
	RICE処置やテーピングなどの応急処置について、理解しているか	
当番医の確認や医療機関への連絡体制は整っているか		
環 境 条 件 等	校庭で行う際、コート内の凸凹はないか	
	雷の有無	
	雨上がりでの練習でコートは安全に活動できるか	
	熱中症を予防するため、適度な休息と水分補給を行っているか	
発 令 時 ラ 対 応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)